

異国飯

100倍お楽しみ マニュアル

近所で世界に出会う本

山谷剛史



和歌山山中のタイ寺、愛知のブラジルバー、東京蒲田のフィリピンダンス

日本の移民タウンで 「リアルな外国カル チャー」を徹底調査!

その国を知れば異国飯がもっと楽しくなる!

異国飯100倍お楽しみマニュアル

ご近所で世界に出会う本

山谷剛史

星海社

363



はじめに

食堂は食べることだけでなく、他の楽しみ方もある。それはその店ならではのオーナーの思い入れのあるモノを観察し、オーナーチョイスの音楽を聞き、オーナーと仲良くなることである。僕もいつしか五感で食堂を楽しむようになっていた。

特に外国人が日本に住む外国人向けにきりもりする異国飯店や異国商店は面白い。そこでは見知らぬ食べ物が食べられて、見知らぬモノが売られているからだ。人は子どものときは幼児向けの絵本や家庭の教育で、学生時代は学校や友人や近所で経験を積み、大学生や社会人になり成人すると、更に行動範囲を広げ経験を積んでいく。中年にもなれば行動範囲にある食事や商品はだいたいどんなものかわかるようになる。

にもかかわらず、異国飯店や異国商店は知らないものばかり。今までの人生経験が役に立たないこともあり、まるで幼少期に戻るかのようだ。

僕はそういうとき、「知らないことを見つけて面白い！」と、未知との遭遇にゾクゾクす

る。そんな人は多いと確信している。

年収が多くても少なくとも、有名人であろうといい歳をしていようとも、海外旅行でセレブリティなリゾート地にいるだけでは満足せず、庶民的な地域を散歩し、スーパーに入つて店内全体をぐるりと回り、知らない商品との遭遇にわくわくする人はいる。中国旅行をしていて、太極拳をやつている一団を公園でみかければ、ちょっと様子を見てついでに真似てみたいと思うもの。また公園で音楽を奏でる老人がいれば立ち止まって演奏を聞きたいし、麻雀で遊んでいればどんな感じなのか様子を見たくなる。中国に限らずどこの国の旅行においても、庶民的な娯楽との遭遇には心ときめき、旅の記憶に残りがちだ。

その疑似体験が日本でできるなら、知的好奇心のままに調べて知つて楽しんでみたくなりだろうか（楽しみたいはずだ）。

本書ではそれを「商品ではないが、店の人にとって大事なモノを知る（第1章）」「外国人に人気のゲームを見つけて遊ぶ（第2章）」「外国人にとつて人気の歌を知つて一緒に歌う（第3章）」「一緒に踊る（第4章）」「一緒に祈る（第5章）」という行為別に、様々なケースのエピソードをいれながら、スマートに謎を解き明かしていく方法を紹介していく。

「スマートに」とは。

それはスマートフォン（スマホ）を使うということ。地図で店の場所を探し、伝えたい内容を話して相手の言語に翻訳し、知らないものの写真を撮って画像を検索し、流れている音楽の曲名を知る。更に生成AI（以下AI）を使いこなし、疑問への回答が書かれた外国語のページを日本語に翻訳して読み、自ら浮かんだ疑問に切り込んでいくという方法だ。

「いやいやAIは嘘をついてばかり」と思う読者もいるだろう。たとえばDeepSeekで僕の名前について「山谷剛史は誰」と質問したところ、東芝の社長と出た（執筆時点）。もちろんそんなことはなく大嘘である。本書では定番のChatGPTやGeminiやDeepSeekはあまり使用せず、調べ物向けに特化したAI「Perplexity」を積極的に利用している。Perplexity（以下パープレ）は知りたいことを文章で入力すると、情報ソースのリンクをつけて回答する、かなり信頼できるAIであり、AIブームに乗って注目を集めたエヌビディアのジェンセン・ファンCEOがパープレを「ほぼ毎日」使用しているほど。

AIはネットの莫大なデータから学習し、回答の文書を生成する。そのため多くの資料がネット上にある、最近十年二十年の事柄についてはAIは強く、逆にネット上に資料が

ない時代に関する質問回答には滅法弱い。^{めっぽう}

本書では、外国人にとつては当たり前の日常に気づき、それを掘り下げる。つまり、現在使われているモノコトを調べるので、ネットの情報はニュースサイトやECサイトや調査研究や学術論文など大量にある。すなわちAIを活用しやすい。

たとえばサウジアラビアに出張する友人から、画像が送られてきた。「家電量販店にこんなあつたよ」という見たこともない、中東でしか売られていないポットの写真だった。

でも画像検索とAIを使いこなせば、その正体や文化的背景や歴史的背景までわかるし、日本のECサイトでもひとつと売られていることがわかる。気づきさえすれば深掘りできる。しかし最初にポットの存在に気づかない限りは、未来永劫調べることもない。何でも答えてくれるAIと対話をするにしても、まずこちらがきっかけとなる何かを知つていらないとはじまらない。



友人から送られてきた中東のポットの画像もAIで調べられる

コミュニケーションを取り、スマートな手法で分析して、更に自らのものにするのが本書の目標となる。これが面白くて僕はずっと楽しんでいる。知らないものや知らないことは異国飯店のある国の数だけ見つかるし、派生して疑問も続々と浮かぶ。疑問に対するAIの回答のウェブリンクにも意外な発見がある。知らないことが次々に湧き上がつては、その疑問を解決することで知的好奇心を満たせるのだ。

自己紹介しよう。僕の本職はフリーランスライターだ。それも競合が嫌いで中国などのアジア地域と、ITを軸に、他人と違うことを書くことを心がけているニッチが好きなライターだ。大学は情報系学科卒で、夏休みにはバックパッカーとして世界八十数カ国を旅した。昔から根っからの海外旅行好きで、庶民の暮らしを見るのが好きな人間である。大学卒業後は会社勤めをしてSEになり、その後フリーランスライターとして、中国雲南省昆明市を拠点に、日本のIT系メディアやトレンドメディアや経済メディアで主に中国のIT記事を20年余り執筆した。日本語メディアに載っていないことを見つけることが特に得意で、AIも使った埋もれがちな情報探索はお手の物だ。

コロナ禍以降は日本を拠点に、身近になつた外国人による現地そのままの異国飯店^{めぐら}巡り

をバックパッカーのように行い、記事の寄稿をはじめた。そして星海社新書で『移民時代の異国飯』という本を出した。X（旧ツイッター）で4万余りのフォロワーがいる。外国の知らないことをポストしているが、多くの人の目に注目されるたび、批判や自慢をたくさん受けて参つてるので、この本はできるだけ嫌味がないように心がけて書いた。また自慢の応酬^{おうしゅう}のような競争競合が苦手で、この本も例外ではなく、他の本にはないアプローチで書いた。

つまりこの本は、IT系ライターで旅行好きのバックパッカーが書いた、全く新しいスタイルの旅の本、あるいはご近所からはじまる民俗学的探究本ともいえる。異国飯店の食の先にはマニュアルも日本語版ウイキペディア記事もない世界が広がっていて、その一部を知るだけでも珍しい日本人になるだろう。何者かになりたい人にも大変効果的だ。

民俗学といえば、大阪にある国立民族学博物館、略称みんぱくのウェブページには、以下のようなことが書かれているので紹介したい。

（前略）パンデミックを境に社会の転換点を迎えたといわれる現在、世界では人類や地球と

いつた視点よりも個別の関心に閉じ込まる傾向が目につきます。分断と言われる現象もこの一つです。国を含む各地域の集団が、それぞれの物語を紡ぎ出すことは文化の多様性を確保する意味で、否定するどころか尊重すべきかと思います。しかし、他者の物語や歴史に思いをはせ、共感し、寛容の心を併せ持たないままでは、個々の物語をぶつけ合うだけの不毛な世界しか生み出さないでしょう。人類全体、地球全体を視野におきつつ、個別の文化と社会の存在を認めていく態度こそが今こそ求められているのです。（『国立民族学博物館
要覧2025』館長あいさつ）

まずは共に生きる人々の食を知り、彼らが大事にする物を知り、更に歌つたり遊んだりといった楽しい習慣を知ること、楽しむことで、ぼやけていた相手の素顔の輪郭りんかくが少しずつ晴れていき、相手をだんだん理解できるようになる。そのうえでグローバルな時代にどう付き合っていくか考えればいいと、僕はそう考えている。

スマートフォンという新時代のハイテク虫眼鏡を片手に近所の異国飯店を巡り、まったく知らないことを探し、その正体を知る知的冒険に出よう。第1章からページを開き読み進めてもらえれば幸いだ。

目次

はじめ 3

第1章

モノ

13

ベトナムショップの神棚に込められた願い
ミャンマーの神棚もAーで深掘り 21

ネパールのマニ車やベルの使い方を教わる
イラン料理店の小物からわかる店主の願い
民族学系博物館はAーでもっと楽しめる 40
30 26 15

第2章

遊ぶ

45

中国麻雀・中国将棋を探して 47

トルコ麻雀・オケイをトルコ雀荘で遊ぶ 54

フィリピン料理店で未知のトランプゲームに出会う 75

タイの人々と一緒にタイのトランプ遊びを楽しむ 71

ブラジルのボードゲームの謎をA→で解き明かす 81

スリランカやインドのビリヤード「キャロム」を求めて栃木足利へ 87

第3章 歌う

107

中国エンタメの現在地 108

異国の楽器を知り、練習する 113

ブラジル流行歌や長渕剛をブラジル人と熱唱する 120

カラオケの作法からその国の文化が見える 136

第4章 踊る

141

フィリピンの踊るレストラン

142

フィリピンと中国のダンスカルチャーは似ている
ダンバの店に通つて出会つたディープなフィリピン文化

147

151

第5章 祈る

157

和歌山のタイ寺院で瞑想と読経に参加する

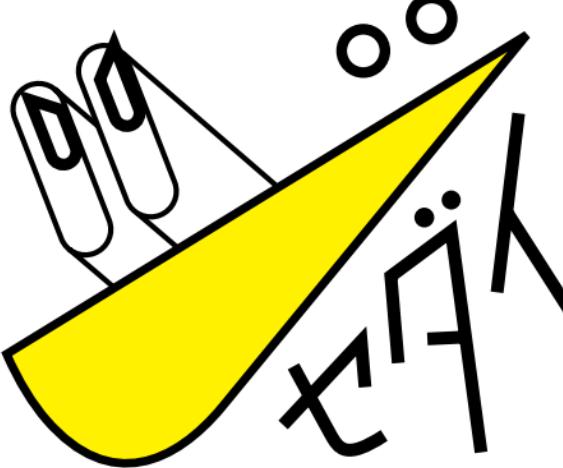
158

新しいタイ寺の建立に立ち会い、盛大な祭りに驚く

168

おわりに

176



君は、 何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ
ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!